



子ども・障がい・高齢者・外国ルーツ……誰も取りこぼさない地域づくり

要支援家庭の声なき SOS を発見し 地域支援の循環につなぐ

市域全域に支援を広げる

この度、厚労省事業「ひとり親家庭等の子どもの食事支援事業」に採択いただきました。事業を通し様々な社会的不利を抱える子どもや家庭の下支えを生み出しながらこれまでおこなってきた「居場所の包括連携によるモデル地域づくり」(全国子ども食堂支援センター・むすびえ休眠預金事業)による第三の居場所アクションネットワーク×高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業(厚労省支援対象児童等見守り強化事業)によるアウトリーチを連動させ、高槻市域全域に官民協働ネットワークを構築し、かつそれを全国に発信していこうと思います。

新型コロナ禍で緊急性の高い地域からはじめた食の支援は、今、市域全域に広がろうとしています。

みなさまの引き続きのご支援どうぞよろしくお願いいたします。

厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」

厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」。当法人は「要支援家庭の声なき SOS を発見し、地域支援の循環につなぐ事業」を構想し、「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」(参画団体数 70 団体・127 名)に呼びかけ、社会課題が集中しやすい市内公営住宅5エリアおよび「高槻市子どもみまもりつながり訪問事業」等にて必要な家庭に配布しました。

実施までには、高槻市さん、ネットワーク団体さんと打ち合わせ、柱本エリアは「きよさきあーちゃん食堂」さん、桜台エリアは「ナーシングホームみらいのいろ」さん、「しらかわ・いもとクリニック」さん、春日エリア他は「シープハウス」さん、川添エリアは「のりまきのすけ」さん、天川エリアは「えん食堂つむぎ」さん、西法寺さん、また、そのほかにも「高槻つばめ学習会」さん、「はらいふ」さん、「大塚わくわく園」さん、「NPO 法人 SEAN」さんと協働し実施しました。

配布する子ども支援パックは「株式会社ミートモリタ屋」さんに提供いただき、それぞれのエリアにて夏と冬合わせて合計約 450 セットの支援パックを随時配布しました。



夏休みに体重の減る子を出さないために

当事業夏休みバージョンのコンセプトは「夏休みに体重の減る子をださないために」。ネットワークの力を活かしながら市域全域に支援の裾野を実践として広げていきました。それぞれのエリアにて合計約 250 セットを随時配布していただきました。



8月31日についに始動！1か所目は七中校区。アクションネットワークでのフードパントリーサテライトでも大変お世話になっている「キヨサキあ〜ちゃん食堂」の松岡ご夫妻はじめ七中校区パントリーに関わっていただいている皆さまのご協力のもと、実施が実現しました。

子どもたちが来る少し前にモリタ屋さんに運んでいただきました。今回は「大きめのバッグ持ってきてね」とアナウンスしていたようですが、予想以上の量に子どもたちもびっくりしていました。提供数も多かったのですが、スムーズに行き渡ったのは、毎週のパントリーの実施で、関係を築いてくださっている関係者のみなさまのおかげです。食材の中には、ジュースやおやつなど、子どもたちにも大人気の食べ物もたくさん入っているので楽しんでもらっていると嬉しいです。

春日地域の提供は9月1日に西教寺さんでの春日シープハウスにて。高槻市内で学習支援を拡げておられる羊会・NPO 法人ファミカさんとの協働で支援が実現しました。持ち帰りが大変な低学年の子どもたちには、シープハウスの大学生スタッフさんが付き添ってお手伝いして下さり、とても助かりました。この支援パック、保存がきくものを選ぶと非常食のような内容になってしまうのですが、地元企業さんならではの地域への想いがたくさん詰まっています、子どもたちが笑顔になれるもの、家族みんなで食べれるものが選定されています。



桜台エリアでの提供は9月9日に開催しました。当日は、ナーシングホーム「みらいのいろ」さんがされているマサミ子ども食堂のスタッフさんが中心となって「しらかわ・いもとクリニック」さんの会場のご協力を得て実施されました。

スタッフさんが子どもたちや保護者の方々に「マサミ食堂再開したらおいでな」と温かいお声がけをされている姿が印象的でした。また、吉田あきひろ市議会議員や民生委員児童委員の小野さんも駆けつけてくださいました。

クリスマスプレゼント配布



冬バージョンはクリスマスプレゼントの配布。夏バージョンは株式会社ミートモリタ屋さんに支援パックを作っていただきましたが、今回も同様にクリスマスのお菓子セットをつくっていただき、市内公営住宅5エリアおよび団体さんの協力を得て必要な家庭に配布しました。

柱本・三箇牧エリアは「きよさきあーちゃん食堂」さん、桜台エリアは「ナーシングホームみらいのいろ」さん、川添エリアは「川添子ども食堂」さん、天川エリアは「えん食堂つむぎ」さん、西法寺さん、また、そのほかにも「高槻つばめ学習会」さん、「はらいふ」さんと協働し実施しました。配布する子ども支援パックは「株式会社ミートモリタ屋」さんに提供いただきました。

それぞれのエリアにて合計約200セットを随時配布していただきました。市内の様々な団体さんの力をお借りしてクリスマスに子どもたちの笑顔につながったと感じています。

市域広域事業これまでの動き

議員さんとのつながり構築にむけて

この間、地域から広がる第三の居場所アクションネットワークの構築及び食支援等の実践を広げつつ、同時並行で政策提言のため党派を超えた高槻市議会議員のみなさまのもとへご挨拶にうかがい、ネットワークの趣旨説明と協力依頼をさせていただきました。

活動についてみなさまから前向きなご意見、ご感想をいただきました。

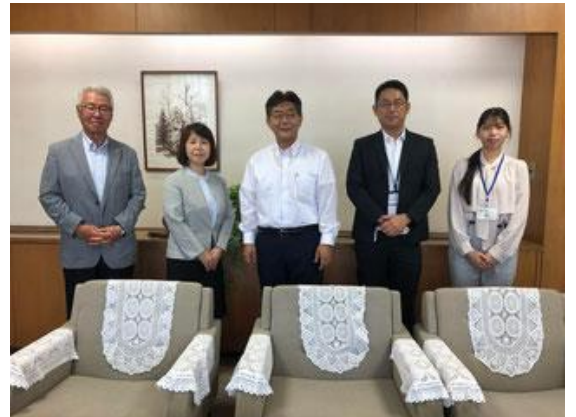
久保隆議員にお時間をいただいた際には、ネットワークの方向性のひとつである官民連携や政策提言に向けた動きについて「ひとつの小さな団体だけが声を発するのではなく、多くの団体がつながり協働することで成し遂げることができる」と心強いメッセージをいただきました。

五十嵐議員と高島議員にお時間をいただいた際に、

五十嵐議員からはネットワークを通じて具体的な実践メニューを創っていくことの必要性と富田地区のまちづくり構想についても貴重なご意見を頂きました。

高島議員は先日のNPO 協働フェスタで子ども食堂についてご質問をお受けする機会がありました。そのきっかけで今回この場を頂戴し、改めて当会についてご説明させていただくこととなりました。

まだ動き出したばかりの当会ですが、前向きな応援のメッセージをいただきました。



甲斐隆志議員には高槻まつり振興会会長の中川修一さんからおつなぎ頂きました。

甲斐議員からは大阪府への働きかけに加え、市内全域において食材支援を広げていくための団体さんをおつなぎいただくご提案を頂きました。

この間、党派を超えて多くの議員のみなさまにご挨拶と趣旨説明に伺っています。子ども支援の前進を真ん中に据えながら多様な方々からのご理解を頂き、社会変化の前進のために邁進したいと思います。

みなさまご多忙中の中、貴重なお時間をいただきありがとうございます。

ネットワークの構築にあたっては党派にかかわらず様々な議員さんからご支援を頂ければと思っております。ご興味頂いた方はぜひよろしくお願いいたします。



「地域から広がる第三の居場所づくりアクションネットワーク」(第8回)を開催しました

11月5日(土)午後3時からJR高槻駅前の総合市民交流センター(クロスパル)で『地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク』(第8回)を開催しました。

昨年11月に湯浅誠さんを迎えて結成された「アクションネットワーク」も今回で8回目。これまではオンライン(ZOOM)会議が多かったのですが、久しぶりに対面での開催。一部、オンライン参加の方を含め約30名の方にご参加いただきました。

会議は三木正博座長の挨拶を受けて参加された各団体・個人の自己紹介。

その後、岡本工介 WAKWAK 業務執行理事兼事務局長から1年間の取り組み報告を受けて、各グループに別れて「この間の事業評価」「ネットワークへの要望」「自分自身がこれからチャレンジしたいこと」をテーマに交流を行いました。

最後は、参加者全員で集合写真。次回は3月11日(土)午前10時からオンラインを中心としたハイブリッド形式で開催の予定です。



01 大阪商工信用金庫様から「社会貢献賞」をいただきました

大阪商工信用金庫(本店:大阪市中心区)様が WAKWAK を訪問。16回目となる今年度の「社会貢献賞」受賞団体にタウンスペース WAKWAK が選ばれ、賞状とトロフィーを贈呈いただきました。

授賞式は当初、リーガロイヤルホテルで開催される予定でしたが、コロナ感染状況が収まらないことから会場での授賞式ではなく直接授与されることとなりました。

授賞理由として「“誰一人取り残さないまち”の仕組みづくりをテーマに多セクターとの共創による活動を産官学協働で永年尽力され、子どもが社会で直面する課題を解決するための教育カリキュラムを学校と地域との協働により構築する等全国的なモデル事業になっている」と多分な評価を頂きました。

今回受賞を受けたのは地域貢献の部3団体とソーシャルビジネスの部2団体の計5団体です。今後とも、受賞に恥じないよう事業展開を行っていきます。本当にありがとうございました。



02 三菱食品「MS スクエア」に ご掲載いただきました。

この度、当法人の子ども食堂や市域におけるネットワークの取り組みについて、日経 BP コンサルティングさまより取材をお受けし『三菱食品 MS スクエア』にご掲載いただきました。

記事では、特集『多世代によるコミュニケーションの場に-子ども食堂の在り方』として

○第1章「地域コミュニティの場として急増する「子ども食堂」」

(全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長湯浅誠さん)

○第2章「広がる企業による支援の輪」(みずほリサーチ&テクノロジーズ齊堂美由季さん)に続き、

○第3章「持続可能な子ども食堂の未来とは-大阪府高槻市のタウンスペース WAKWAK に学ぶ」

(タウンスペース WAKWAK 業務執行理事兼事務局長岡本工介)で

ご紹介いただきました。

記事では、WAKWAK の活動紹介をはじめ、子ども食堂の意味や企業さんからの支援が生み出す社会への信頼感など限られた時間でのインタビューを的確にかつわかりやすく、おしゃれにまとめて頂きました。

取材いただいた日経 BP コンサルティングさま、ご掲載いただいた三菱食品さまに感謝申し上げます。



info

会員継続と支援のお願い

賛助会員として広く活動を支援して下さる方を募集しています。なお、正会員は社員として議決権を有します。

○正会員（団体）1 口1万円（個人）1 口5千円

○賛助会員（団体）1 口1万円（個人）1 口1千円

当法人 HP の申込みフォーム欄にてご連絡先住所等の必要事項を送信いただいた上、会費を直接ご持参いただくか下記の郵便口座にお振替下さい。(領収書が必要な方は、その旨、お申し出ください)

会費振替口：00990-6-201524 口座名：タウンスペース WAKWAK

また、クレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。同封別紙をご参照ください。

(編集後記)

たくさんの方との出会いとご協力のもと市域全域への支援が実施できていることを実感します。今後とも、富田地域を基盤により多くの人に支援を届けていくためにも継続したご支援はもとより新たなご支援をぜひともよろしくお願い申し上げます。